なくなあれ、おきなわのきち

読谷村立 喜名小学校 三年
小渕（オブチ） 喜羽（キワ）

「行ってきまあす」。
今年もまた、お父さんはへいわこうしんに出かけた。
「きちがなくなるまで、お父さんがんばるからね」。
お父さんのこうしんがおわると、けんみん大会には、家族でさんかした。
きょ年のいれいの日には、お父さんと妹の三人で、へいわ学習のバスツアーに出かけた。そして、ぎのわん市の「さきまびじゅつ館」や「かかず公園」でせんそうのお話を聞いた。
「みんなが大人になっても、ぜったい、せんそうはしないでよ」。
せつめいしてくれたおじいちゃんの言葉が心にのこっている。
五月十五日、新聞やテレビで、「ふっき四十周年」というニュースをしていた。四十年

コクヨ ケ−10 20×20

前は、お父さんもお母さんもまだ生まれていない。それで、おじいちゃんやおばあちゃんにふっきの話を聞いた。
お金がドルから円へ、車は左がわ、人は右がわ通行、そして、りゅうきゅうせいふから、おきなわけんにかわって、やら知事がえらばれたそうだ。
また、東京やさい玉などに行く時には、パスポートというしょうめい書がひつようだった。おじいちゃんとおばあちゃんが大学生の時のパスポートも見せてもらった。
わたしは、同じ日本なのに、どうして外国なんだろうとふしぎに思った。
また、おじいちゃんに、「おきなわをかえせ」の歌も教えてもらった。
「おきなわをかえせー(かえせ!!)おきなわをかえせー(かえせ)」
わたしと妹は、おふろの中で大きな声で歌った。
でも、おきなわには、まだきちがある。わ

たしがすんでいる読谷村のすぐ近くにも「かでなきち」がある。ときどき、わたしがねている時にも、ひこうきがとぶ音が聞こえる。

「もし、ひこうきがおちたらどうしよう!!こわいなあ。」

前に、ヘリコプターがついらくした「おきなわこくさい大学」に行った。ついらくした日はちょうど夏休みだったので、なくなったりけがをする人はいなかったそうだ。ヘリコプターやジェットきは、人のすんでいない山や海の上を通ってほしいな。

　これからは、せかい中のみんながなかよくしていけたらいいな。また、せんそうにつかうどうぐは、ぜったいにつくらないほうがいいと思う。

　お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、おきなわからきちがなくなるようにがんばってください。おねがいします。わたしも、妹やお友だちとなかよくしてがんばります。